



サステナビリティレポート
SUSTAINABILITY REPORT
2022



NRS株式会社

CONTENTS

化学品物流をリードするNRSグループ

| | |
|---------------------|---|
| 社長メッセージ | 3 |
| 企業理念 | 4 |
| NRSグループのビジョン | 5 |
| 沿革 | 6 |
| NRSグループの強み | 7 |
| NRSグループの目指すサステナビリティ | 8 |

環境

| | |
|----------------------------|----|
| カーボンニュートラルの実現を目指して | 12 |
| CO ₂ 排出削減への取り組み | 12 |
| 廃棄物の低減 | 14 |
| 環境汚染の防止 | 14 |

社会：安全品質活動

| | |
|--------------------------|----|
| 安全で高品質な物流を提供するために | 15 |
| 顧客に満足されるサービスを目指して | 18 |
| ベトナム初の化学品専用倉庫の開業 | 18 |
| 「化学品物流に今ない価値を創る」物流DXの4戦略 | 19 |

社会：人財

| | |
|---------------------|----|
| 社員が誇りと物心両面で幸せを感じる仕事 | 20 |
|---------------------|----|

社会：社会貢献

ガバナンス

| | |
|----------------------|----|
| 社会から信頼され持続的な成長ができる会社 | 25 |
| コンプライアンスの徹底 | 26 |
| リスクマネジメント | 27 |

ESGデータ

会社概要

会社名：NRS株式会社
代表者：代表取締役社長 戸木 眞吾
所在地：〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-7-1
興和一橋ビル8階

設立：1946年12月

事業内容

：倉庫、通関、国際輸送、貨物自動車運送、貨物自動車利用運送、鉄道貨物利用運送、海上貨物利用運送、航空貨物利用運送、輸送容器のリース・レンタル・販売、3PL（サード・パーティー・ロジスティクスサービス）、物流情報システムの開発等

資本金：20億円

URL：<https://www.nrsgr.com>

編集方針

このレポートは、ステークホルダーの皆さまに当社のサステナビリティへの取り組みをわかりやすくお伝えすることを目的に編集しました。構成は、NRSグループについて、グループのサステナビリティへの取り組みについて、環境・社会・ガバナンスへのこれまでの取り組みについてとESGデータとなります。

報告対象期間

・2022年度（2021年10月1日から2022年9月30日）ただし、関連性のある内容については一部この期間外の情報も報告しています。

報告対象組織

NRS株式会社およびグループ会社

発行時期

2022年12月

サステナビリティレポートに関するお問い合わせ先

NRS株式会社 サステナビリティ推進室
TEL：03-5281-8145
Email：Sustainability@nrsgr.com



社長メッセージ

NRS株式会社
代表取締役社長
戸木 眞吾



我々の生活がより豊かに・より便利に・より機能的に発展するに欠かせない化学品、NRSが持つ物流機能はグローバルにおいて化学品の重要なサプライチェーンの一角を支えています。

「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」の企業理念に基づき、「総合力で化学品物流をリードする」の経営ビジョンをあげ、「地球の化学品物流に最適解を ベストアンサーはNRS」の存在意義を高めるために、絶え間なく進化し、より高付加価値なサービスを追求して企業価値を高めてまいります。安全と遵法を基本に据えて、顧客・それにかかわるすべてのステークホルダーから信頼され社会の持続的成長を支える事業を繋いでいきます。



企業理念

「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」

物流は「製造」と「消費」をつなぐきわめて重要な役割を持ち、産業の基幹をなしています。化学製品は自動車、家電、IT、医療、食品、エネルギー等、人類社会の豊かな生活に不可欠なものですが、一方でその原料の化学品は、「燃える」「爆発する」「毒性が強い」など非常に危険な性質を持っています。この化学品の物流にもっとも重要なもの、それは「安全」、そして「法の遵守」です。安全と法令順守、このことを基本に据えて、高品質・高効率な物流サービスを提供することが化学品の総合物流事業者であるNRSグループの使命であります。NRSグループの従業員は日ごろから自己研鑽に務め、自立的、自発的な行動のもと、顧客の要求に的確、且つ迅速にこたえられる高い品質と規模を備えた会社をつくりあげる。そのことによって顧客、取引先と社会に貢献し、広く支持されることを目指したいと思えます。

従業員が誇りをもって仕事をする。そして物心両面で幸せを感じられる会社。まさしく「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という創業の理念に到達できると信じるものです。

株式会社日陸からNRS株式会社へ

2022年10月 社名変更とブランド統一を行いました

2022年10月1日付で株式会社日陸からNRS株式会社に社名を変更しました。また、よりグローバルに一体感を強化するためにグループ会社の社名も改め、NRSブランドに統一しました。

当グループは化学品物流分野で輸送事業のほか、タンクヤード、倉庫事業、ISOコンテナやIBCの容器のリース・販売、海上・国際輸送のフォワーディング事業などをグローバルに展開していますが、グループ企業間では、社名、ブランド名が分散しておりました。そのため、当社は主力ブランドとして浸透しているNRSを新社名とするとともに、海外を含めたブランドを統一し、化学品物流におけるグローバルでのポジションをより高めていきます。



NRSグループのビジョン

私たちNRS株式会社は、「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という企業理念のもと、ビジョン・ミッション・バリューを新たに策定いたしました。ビジョンは企業理念に基づいた経営目標、ミッションは存在意義、バリューはビジョン・ミッションを達成するための具体的な行動基準と位置付け、企業理念と企業倫理綱領を繋ぐ指針とします。これは、社名変更を契機にグループの一体感を強化し、One NRSで世界を、地球を繋いでいくという強い意志表明でもあります。

NRSが取り扱う化学品は、世界の発展を支える重要な要素です。顧客の要望に応え安全な取り扱いを行うことはもちろんのこと、環境問題や社会課題にも取り組みます。

社会、顧客、取引先、社員、家族をはじめとしたステークホルダーへの責任を果たすことで、私たちにかかわるすべての人々の物心両面での幸福を追求してまいります。

企業理念

小さくともダイヤモンドの如く
みんなの幸せを

ビジョン

総合力で化学品物流をリードする

ミッション

地球の化学品物流に最適解を
ベストアンサーはNRS

バリュー

安全と遵法を第一に
革新と発展を社会に
安心と信頼を顧客に
学びと成長を自らに



| | |
|-------|--|
| 1940~ | <p>1946年 戦災タンク貨車の復旧による石油化学品の輸送販売を目的として「日本陸運産業株式会社」設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日陸輸送株式会社、日陸倉庫株式会社設立 <p>京葉工業地帯の石油コンビナートに大規模な危険物倉庫を開設。タンクローリー輸送事業、関西地区のタンクヤードとともに化学品業界の発展に貢献</p> |
| 1980~ | <p>安全で高効率なISOタンクコンテナの国内運用の道を開く</p> <ul style="list-style-type: none"> ■高石ケミカル株式会社設立。通関事業開始。 ■タンクコンテナ事業開始、海上タンクコンテナ事業部門開設 <p>当時日本で国内運用が認められていなかった国際輸送用ISOタンクコンテナに注目。最大積載量24tに対応した車両を車両メーカーと共同で開発。消防関係規則の緩和を当時の政府に強く働きかけ、輸出入貨物限定で24t ISOタンクコンテナの国内通行許可を取得。さらに働きかけを続け、1999年には上記の最大積載量が30.48tへ緩和、2004年には「輸出入貨物限定」条件が撤廃され、効率的で省資源な物流に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日本での輸出入の増加に伴ってトレーラーの横転事故が全国で多発。車両メーカーに共同開発を持ちかけ「横転抑止装置付海上タンクコンテナ積載専用シャーシ」を開発し、翌年当社の全事業所に配備した。 ■米国・ニューヨークに現地法人NRS America Inc.設立 [現NRS LOGISTICS AMERICA INC.] ■英国インターフロー（タンクコンテナシステム）社を買収し、NVO事業を開始 [現NRSオーシャンロジスティクスリミテッド] ■IBCのレンタル・販売開始 ■シンガポールに現地法人NRS Singapore Pte. Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS SINGAPORE PTE. LTD.] |
| 2000~ | <p>中国交通部の要請で本格的な危険物倉庫を開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ■中国・上海に合併会社上海日陸外聯発物流有限公司設立 ■無機シアン化合物またはフッ化水素若しくはこれを含む製剤の運搬については、輸送数量が10kl以下に制限されていたが、当社が事務局を務める日本危険物コンテナ協会を通じて、長年にわたり熱心に関係省庁に働きかけたことにより、IMO基準にISOタンクコンテナであれば容量の制限なく運搬が可能となり、当社が最初に無水フッ化水素の国内輸送を手がけた。 ■中国・上海に保税危険物倉庫開設 <p>当時、中国の危険物倉庫は小屋のような建物に消火器がある程度のものであった。中国交通部が日本へ危険物物流の視察に来日した際に対応していた縁で、上海での危険物倉庫運営の要請があり、上海港に保税危険物倉庫を開設。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■航空貨物輸送事業部門開設 <p>2008年 社名を「株式会社日陸」に変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ■医薬品、医薬部外品、化粧品品の製造業（包装・表示・保管）許可取得 ■IATA貨物代理店認可取得 ■IT点呼の考案 <p>乗務員の健康管理と安全確保の基盤となる点呼は、深夜、早朝に行われることが多く、運輸事業者の間では大きな経済的、人的負担となっていた。そこでITを活用したIT点呼を考案し、国土交通省で認可を得て、安全運行と業務改善の向上に繋がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■東京税関より認定通関業者（AEO制度*）認定を国内第1号として取得 ■環境ISO14001認証取得 |
| 2010~ | <p>日本で培った安全品質物流のノウハウを展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ■韓国・ソウルに現地法人NRS LOGISTICS KOREA CORPORATION設立 [現NRS LOGISTICS KOREA CO., LTD.] ■タイ国・バンコクに現地法人NRS Logistics (Thailand) Co., Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.] ■台湾・台北市に台湾支店開設 ■NRS Logistics Vietnam Co., Ltd.設立 ■東京税関より特定保税承認者（AEO制度*）の承認取得 ■ベトナムに現地法人NRS Raiza Logistics Vietnam, JSC.設立 <p>同国初 日本品質の危険物倉庫を開設へ</p> |
| 2020~ | <p>2022年 社名を「NRS株式会社」に変更</p> |

*AEO制度：貨物のセキュリティ管理と法令遵守（コンプライアンス）の体制が整備された事業者に対し、税関が承認・認定し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度



輸送事業



倉庫事業



タンクヤード事業



コンテナ事業



フォワーディング事業



IT点呼の様子



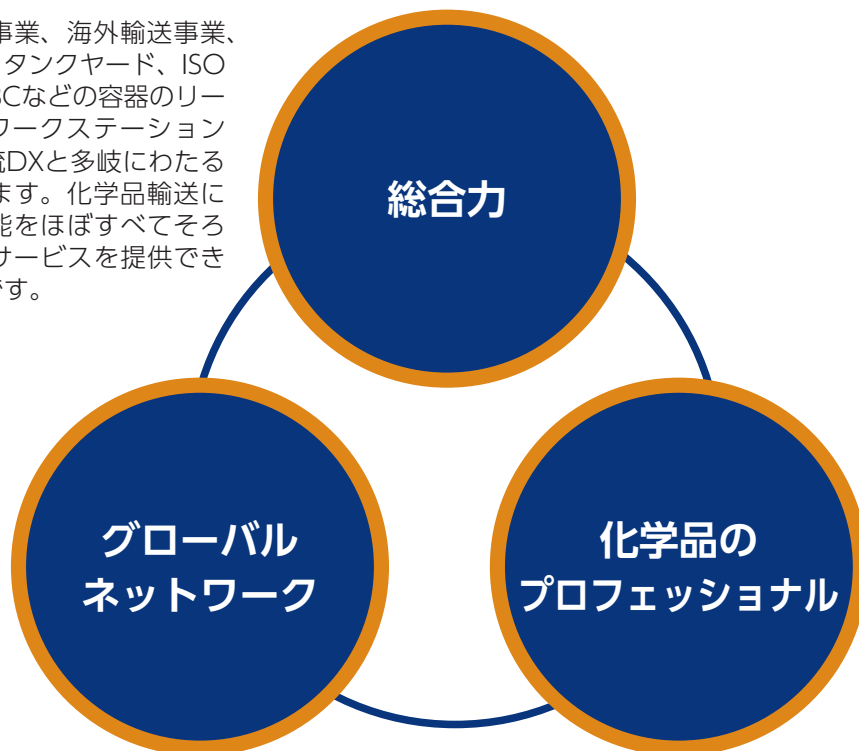
ベトナム初 日本品質の危険物倉庫



NRSグループの強み

NRSグループがかかわる事業環境では、新型コロナウイルス感染の拡大、ウクライナ情勢を機に、サプライチェーンの重要性が高まっています。安全と法の遵守を基本に据えて、「総合力」、「グローバルネットワーク」、「化学品のプロフェッショナル」という当社グループの強みを今後も強化し、高付加価値なサービスを追求します。

化学品の国内輸送事業、海外輸送事業、倉庫事業をはじめ、タンクヤード、ISOタンクコンテナやIBCなどの容器のリース・販売、マルチワークステーションの運営、通関、物流DXと多岐にわたる事業を展開しています。化学品輸送に特化した様々な機能をほぼすべてそろえてワンストップサービスを提供できるのが当社の強みです。



イギリス、オランダ、フランス、ドイツ、アメリカ、中国、台湾、韓国、シンガポール、タイ、ベトナムにグループ会社を持ち、グローバルに顧客のニーズに応えます。One NRSをスローガンにグループの規模感、一体感をより強化していきます。

安全で高品質な物流は、危険物に関するプロフェッショナルだから実現できるものと自負しています。また、従来から注力してきた化学品の物流に関する知識などの教育のみならず、グローバルに通じるリーダーとなる人財を育てています。これまで以上に人財への投資を増やし、強化充実させ、常に社会課題に向き合いながら新しい価値を創り出す人財を育成しています。



NRSグループの目指すサステナビリティ

持続可能な社会創出（サステナビリティ）に対する考え方

NRSグループは化学品・危険物物流のリーディングカンパニーとして、地域や環境への負荷を軽減する事業活動を徹底しています。
これまでもそしてこれからも、SDGs/ESGに配慮した企業活動で持続可能な社会の創出に貢献します。当社グループが目指すSDGs/ESGへの取り組みは下記の通りです。

NRSグループのSDGs/ESGへの取り組みが目指すもの



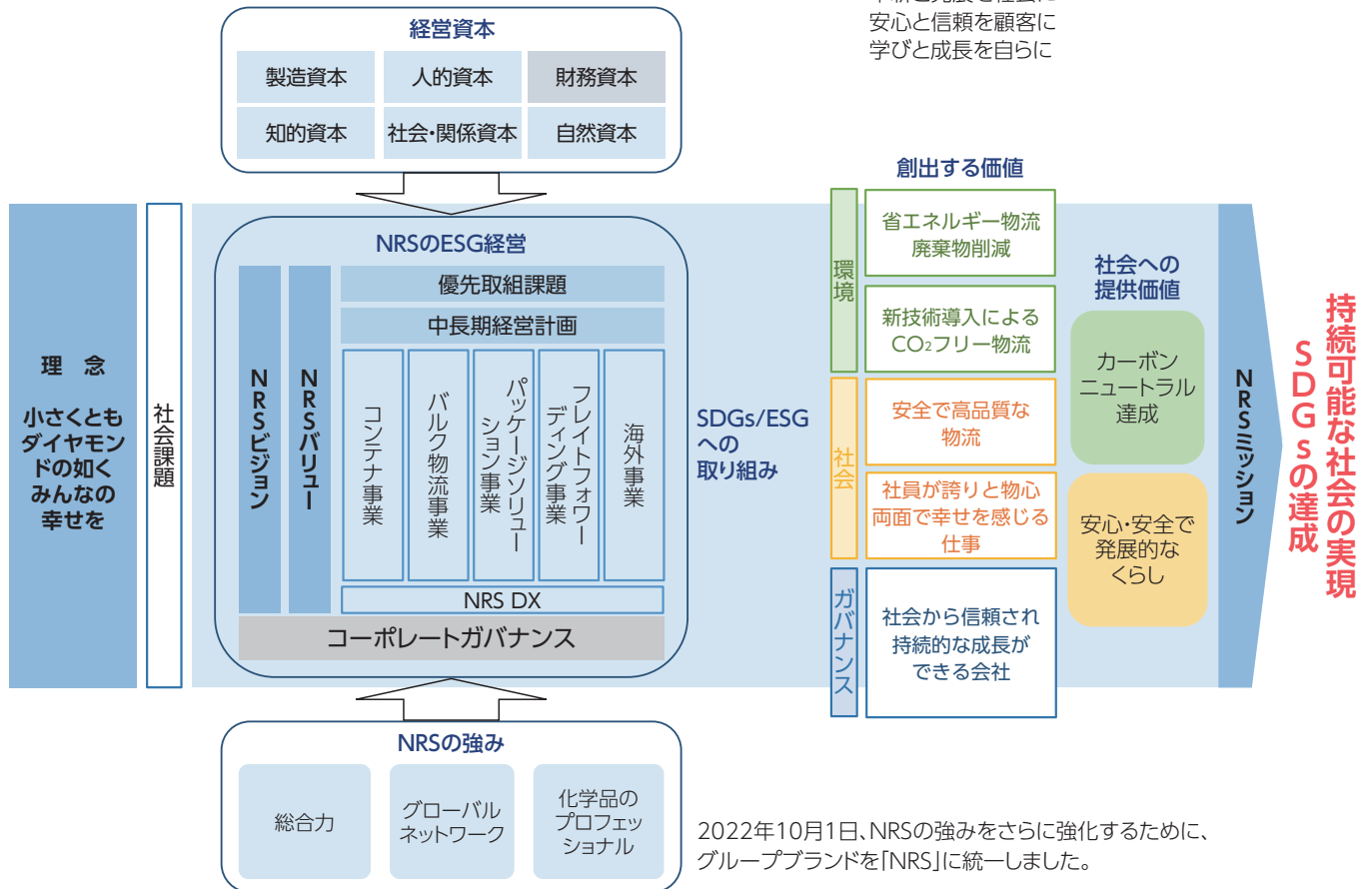
NRSグループの目指すサステナビリティ

NRSグループのサステナビリティロードマップ

人類社会の発展や高度化に不可欠である化学品のサプライチェーンにおいて、物流業が産業の基幹を担うことに誇りを持ち、「NRSバリュー」を社員1人ひとりが高め、安全で高品質な物流サービスを提供することで社会課題を解決し、持続可能な社会の創出に貢献します。

NRSグループビジョン 総合力で化学品物流をリードする
NRSグループミッション 地球の化学品物流に最適解を ベストアンサーはNRS
NRSグループバリュー 安全と遵法を第一に

革新と発展を社会に
 安心と信頼を顧客に
 学びと成長を自らに



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



*SDGsとは、2030年までに社会が抱える問題を解決するための世界共通目標として、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標」です。17のゴールと169のターゲットで構成されています。



NRSグループの目指すサステナビリティ

SDGs達成（2030年）に向けたNRSグループの重要課題（マテリアリティ）



CO₂排出の削減

変動要因はGHG（主にCO₂）であり、その主要発生源は化石燃料と電力です。燃料については脱化石系への切り替えを使命とし、水素・EV・バイオマス等への代替を進めます。電力については太陽光発電の取り込みや電力購入先の再生可能系への転換を計画的に進めます。また、省エネルギー・省資源化への取り組みは日常作業として定着に努めます。

コンプライアンスの徹底

関係法令の遵守はもとより、社内規程や作業マニュアルに至るすべてのルールの遵守を徹底しています。コンプライアンス委員会を通じて法令の遵守状況を確認し、管理監督および必要に応じた是正を進めています。

多様性の尊重と働きやすい職場づくり

少子高齢化の中で優秀な人財を確保・育成し、成長し続ける企業であるために、外国籍人財の積極的な採用や定年制度の延長など多様性の尊重（ダイバーシティ）を推進しています。また、組織の活力である社員が十分に能力を発揮できるように、ワークライフバランスを重視した制度の拡充や、多彩な教育研修の計画と実施を進め、安全で働きがいのある職場づくり（ディセントワーク）に取り組んでいます。

安全で高品質な物流の提供

化学品は社会の発展に大きく寄与します。しかし、大気・水質・土壌等環境への悪影響や大規模災害に繋がるリスクの考慮が欠かせず、取り扱いには専門的な知識・技能や経験が必要となります。NRSグループでは、化学品物流のプロフェッショナルとして安全で高品質な物流を提供するために積極的な人財育成、物流荷役設備の整備・予防保全、DXのさらなる推進に取り組んでいます。



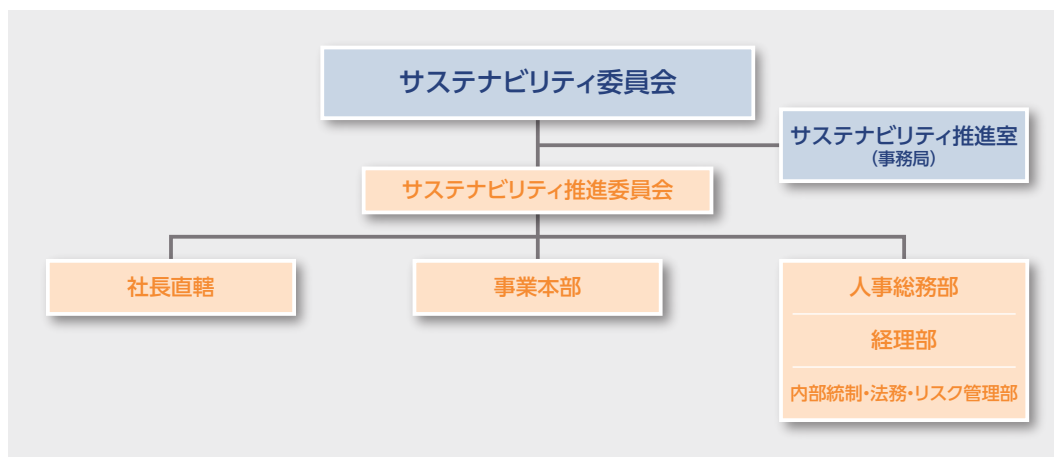
NRSグループの目指すサステナビリティ

サステナビリティ推進活動

当社では2021年1月、SDGs委員会をはじめとしたSDGs推進体制を発足し活動していましたが、サステナビリティの視点を踏まえた経営をさらに強化・促進するため、2022年11月、サステナビリティ委員会へ名称を変更いたしました。サステナビリティ委員会は社長を委員長とし、取締役メンバーで構成、サステナビリティ推進に関する方針の策定等を行います。推進委員会では会社方針を具体化するため、社内各拠点を中心に広くはステークホルダーへ活動方針や実行計画等を共有・公開する使命を有します。

ここまでの活動成果は、先に記載の取り組みの策定、ホームページの改訂（サステナビリティページへの改訂）、社外評価（EcoVadis評価）への対応があげられます。社内向けには活動情報共有を目的とするニュースレターの定期発行をはじめ各種伝達媒体による情報発信を行っています。また、2046年のカーボンニュートラル化を宣言、その行動計画策定へも対応しています。

サステナビリティ委員会組織図



国際的なサステナビリティ格付機関からの評価

NRSグループは2021年10月、フランスのEcoVadis社が実施したサステナビリティ調査において「ブロンズ」の評価を獲得しました。EcoVadisは、数千にのぼる外部ソース（NGO、労働組合、国際機関、地方自治体、監査機関など）をもとに、独自のCSRに関する評価基準によって、世界各地で90,000を超える企業・団体のサステナビリティへの取り組み状況の評価する、独立した信頼性の高い共同プラットフォームです。NRSグループでは、社員1人ひとりがSDGs/ESGを意識しながら、サステナビリティ推進の取り組みを一層強化していきます。



参画するイニシアティブ

- JH2A 水素バリューチェーン推進協議会
- クリーン燃料アンモニア協会
- 日本危険物コンテナ協会
- 「ホワイト物流」自主行動宣言



環境

物流事業において環境負荷は避けられません。その事実を深く厳しく受け止め、いかにして負荷を減らし、環境にやさしい持続可能な事業を実現できるか、NRSグループは考え続けます。

環境方針

当社は、化学製品を中心とした運送・保管業務及びその他付帯する業務を展開する中で環境汚染の予防に配慮した物流を推進する。

環境に関する法令、条例、その他締結した協定、申し合わせ等を遵守する。

当社の事業活動が環境に与える影響を考え、地球温暖化、大気汚染等に重大な影響を与えるCO₂の排出削減等次に掲げる項目に対して重点的に取り組む。(営業所、グループ会社が行なう環境に関する活動の支援、推進、管理等を含む)

環境方針は、掲示その他の方法で社員及び関係先に周知する他、求めにより一般に開示する。

大気汚染防止、水質汚濁防止及び地球温暖化防止対策
 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進による廃棄物の削減
 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進

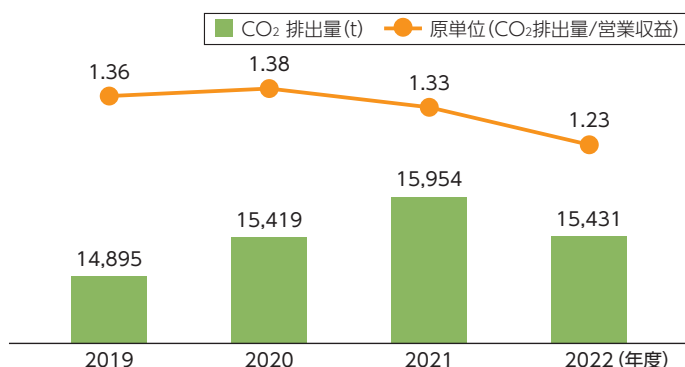
カーボンニュートラルの実現を目指して

2050年にカーボンニュートラルを達成とする日本のNDC(国が決定する貢献)を前倒しし、創立100年の2046年の達成を宣言しました。SDGs完了の2030年時点では、購入電力のCO₂フリー化および荷役設備・社有車類のEV化完了を目標とし、NRSグループ全体で取り組みます。達成には一企業の努力では限界があり関連企業等との協業が不可欠ではありますが、まずは対応組織への参画・果たすべき役割の明確化に努めます。

2022年度現在、すでに太陽光発電設備第一期計画への着手や省エネルギー省資源推進体制の整備は完了しました。また、グループ全体の電力使用量を管理し、CO₂排出量へ換算しています。一方、化石燃料由来のCO₂排出対策としては、水素をはじめとするクリーン燃料への切り替えが不可避であることから足元の活動として、低CO₂化に向けた新燃料導入検討を開始しています。

CO₂排出削減への取り組み

NRSグループでは、事業活動で発生するエネルギー使用量やCO₂排出量を把握しています。2022年度は、国内の環境目標を「営業収益百万円あたりのCO₂排出量削減率を前年度比▲3%改善」とし、▲7%以上の改善を達成しています。



2022年度環境目標

2021年度比エネルギー原単位
 目標：▲3.0%
 実績：▲7.5%



グリーン経営認証

2005年以降トラック業および倉庫業の登録を開始し、現在はトラック業10拠点、倉庫業2拠点の認証登録を完了し更新を続けています。

また、昨今のトラック業を取り巻く環境は、大きな変化を迎えており、ドライバーの人手不足や燃料価格の高騰、CO₂の排出削減など、課題が山積みです。当社では課題解決のため特にエコドライブを積極的に取り組んでいます。

<エコドライブの主な取り組み事項>

- 荷物の積み降ろしの際には、アイドリングストップを心がける
- 急発進、急加速、急ブレーキを控える
- 不要なものは積まない
- シフトアップは早めに行う
- 経済速度で走る
- 無駄な走行はしない（例：走行ルート of 事前確認など）
- タイヤの空気圧を適正にする
- 空吹かしをしない
- エアコンの設定温度（使用）を控えめにする



太陽光発電設備の設置

すでに太陽光発電設備を設置している横浜物流センターの他に、袖ヶ浦倉庫、群馬物流センター、土気流通センター、大阪物流センター、中部物流センターの5拠点について導入を検討しています。2022年11月より工事、2023年2月より運用開始を予定しており、これにより2023年度のCO₂排出量は▲330t-CO₂を見込んでいます。残りの拠点についても引き続き太陽光発電設備導入を検討していきます。



国内倉庫全拠点のLED化完了

国内9拠点のうち6拠点は完全LED化完了、残り3拠点についても80%以上はLED化が進んでいます。

千葉物流センターにおいては、完全LED化により、▲60万kWh（CO₂排出量▲600t-CO₂）を達成しています。

国内拠点のグリーン電力導入

SDGs完了の2030年時点で購入電力のCO₂フリー化が目標となっています。2022年度は千葉事業所、群馬事業所で2022年8月より再エネ100%電力への切り替えを行っています。これはNRSグループで初となるグリーン電力の導入になります。

ウクライナ情勢の影響などにより国際燃料市場における電力供給不足が懸念されていますが、次年度以降も引き続き、グリーン電力への切り替えを進めていきます。

「モーダルシフト優良事業者表彰制度」 7年連続の表彰

物流手段をトラック輸送から、大量輸送が可能な海上輸送や鉄道輸送に転換することで、CO₂排出量の削減、エネルギー消費量の節約など環境負荷の低減に貢献しています。2021年度は、群馬県から北海道への化学製品の輸送をトラック輸送から海上輸送へ転換し、日帰り運行が可能となったことでCO₂排出量削減とトラックドライバーの負担軽減を実現しました。この取り組みが評価され、2021年11月に令和3年度「モーダルシフト優良事業者表彰制度」の「新規開拓部門優良事業者賞」を受賞しました。



廃棄物の低減

リターナブル容器による廃棄物低減

ISOタンクコンテナ、IBC等のリターナブル容器は、洗浄して繰り返し利用可能な環境にやさしい運搬容器です。例えば、ドラム缶輸送からISOタンクコンテナによる輸送に切り替えた場合、約80本分のドラム缶と、その輸送にかかわるパレットなどの副資材の廃棄物低減に寄与することができます。

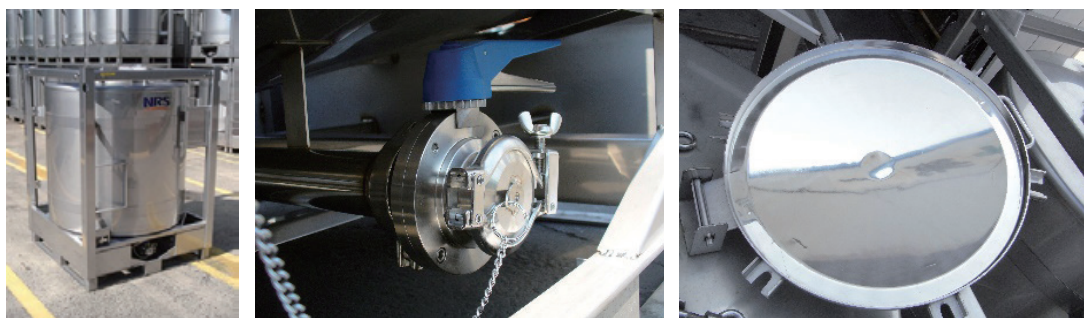
廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、本社およびすべての事業所、物流センター、営業所、出張所を対象とした「廃棄物管理規則」を定めています。廃棄物の減量化や適正な管理の徹底に努め、最終廃棄物排出ゼロ（ゼロエミッション）の実現、カーボンニュートラルの達成を目指します。

環境にやさしい新容器「グリーンIBC」の開発

当社のサニタリーIBCs容器は繰り返し利用できるリターナブル容器であり、高い耐薬品性を有します。積載品の品質維持効果、容器洗浄後の抗菌効果等が認められ、化粧品をはじめとするトイレタリー業界で幅広く活用いただいています。

当社では、この容器の外面に酸化チタン光触媒コーティングを施したことにより環境にやさしい新容器「グリーンIBC」を開発しました。酸化チタン光触媒コートは大気汚染物質の一種である窒素酸化物を酸化分解し周辺の空気を浄化する働きがあります。また、外面が汚れても太陽光の作用で自浄するセルフクリーニング機能もあり、容器をクリーンで清潔な状態に保つことができます。



環境汚染の防止

大気汚染防止への取り組み

大気汚染防止対策として、当社のコンテナデポ（洗浄・修理・メンテナンス施設）、タンクヤードでは、作業場で発生する臭気をスクラバーで処理しています。

水質汚濁防止への取り組み

コンテナデポでは、コンテナ洗浄作業から発生する廃水は排水処理設備にて基準に従い確実に処理しています。

環境ISO認証の取得

2022年2月21日、コンテナデポサービスを行っている川崎ConTechにおいて環境ISO14001認証を取得しました。ISO14001認証の取得は、本社、千葉BC、千葉BC袖ヶ浦倉庫、横浜BC、高石ケミカルに続き6拠点目となります。また、2022年5月より神戸ConTechおよび周南ConTechにおいても環境ISOの運用を開始しています。審査を経て認証取得は2023年2月を予定しています。



社会： 安全品質活動



危険物を取り扱うNRSグループにとって、「安全」は事業の根幹であり社会への責務です。社員1人ひとりが危険を予知して事故を防げるよう、計画的かつ徹底した安全品質管理を行っています。

安全で高品質な物流を提供するために

安全推進委員会

社長を委員長とし、年度ごとの環境安全品質目標および目標を達成するための計画：NRSグループマネジメントプログラムを策定します。これをベースに事業所は安全品質活動計画を策定し計画的に安全活動に取り組み、実施状況を定期的に報告します。安全品質年間活動計画の作成は、1年間の安全活動を司る計画ですので重要な作業となります。

2022年度環境安全品質目標

| 目標 | 実績 |
|---------------|---------|
| 1. 環境事故ゼロ | 達成（ゼロ） |
| 2. 重大事故ゼロ | 達成（ゼロ） |
| 3. A級事故 16件以下 | 達成（13件） |

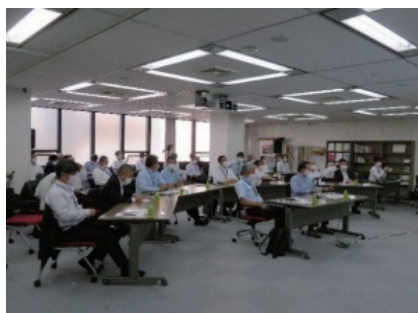
化学物質管理の徹底

化学物質等による事故防止のためリスクアセスメント管理規則を制定し、新規取扱時や変更時のリスクマネジメントを徹底しています。

安全大会

バルク輸送部門、パッケージソリューション部門、タンクヤード部門、コンテナデポ部門の4部門に分けて毎年2部門ずつ交互に実施しています。テーマを決めて演練方式と発表形式で実施します。直近の2年間は、コロナ禍の影響で、屋外での開催は困難になりましたが、安全に関する活動は停滞させてはならないとの信念のもと、部門ごとに発表形式で実施しています。

2022年度は、【パッケージソリューション部門】7営業所と【タンクヤード部門】4営業所が発表しました。テーマは「事故対策等安全活動」とし、過去に発生した事故を再現し、その対策を実演することで安全のための情報が共有され有効に機能しています。



安全巡視

NRSグループ国内25営業所を各地区に分け、年1回実施しています。2022年度は、関西地区（大阪・神戸）、関東地区（千葉、横浜・川崎、群馬）で実施しました。

会長、社長をはじめ関係部署責任者および各管理者が営業所の倉庫構内・車両車庫・事務所等を巡視し、危険箇所の抽出および問題点を話し合い、業務改善に繋げています。また、巡視終了後、安全会議を開いて意見交換を行い、さらなる安全活動の強化に役立てています。



重大事故対策強化月間

過去の教訓を風化させないことを目的に、重大事故が発生した月間を対象に「強化月間」を毎年設定し、ポスターによる啓蒙、事故の発生状況、原因および対策について再学習しています。対策の維持状況の確認、類似作業の洗い出しなど、全社員が実施し、類似事故の再発防止を徹底しています。

1月 転落事故防止

2月 酸欠事故防止

5月 横転事故防止

7月 圧力・被液、荷役機器事故防止

8月 誤出荷・誤納入事故防止

H（ヒヤリ）H（ハット）K（キガカリ）カード

業務中、実際にあったヒヤリしたこと、ハットしたことについて「HHKカード」を作り、社内で水平展開し危険認識を向上させ事故削減に取り組んでいます。

2022年度は、計445件のHHKカードが提出され事故予防および改善活動に繋がっています。

無事故表彰制度、異常早期発見表彰制度

物流安全品質の維持向上を目的として、無事故の継続や事故予防に貢献し他の模範となる社員（協会社社員含む）を表彰する「無事故表彰制度」や設備・車両・受託製品・書類等の異常を早期に発見し、危険物の漏えい、受託製品の損傷、誤配等を未然に防止した事案を表彰する「異常早期発見表彰制度」を設けています。

2022年度の無事故表彰受賞者は133名、異常早期発見表彰は3件です。

漏洩事故訓練

危険物、毒劇物の漏洩事故が発生した際に社員が迅速に対応、環境影響を最小限にするために作成された手順書をもとに訓練を実施しています。また、漏洩事故に対応した資機材についても管理を徹底しています。



安全性優良事業所（Gマーク）認証取得

すべての輸送事業所および輸送課のある物流センターでは、国土交通省および社団法人全日本トラック協会が推奨している「安全性優良事業所（Gマーク）」を認定取得しています。Gマークは、安全で優れた運送事業所の証です。



運輸安全マネジメント

2005年に多くの分野の運輸事業者には事故・トラブル等が多発したことから運輸事業者の安全管理体制について国が監視する体制を構築し、国と事業者がともに運輸事業の安全を高めることを目的として、2006年に導入されました。すべての輸送事業所および輸送課のある物流センターで取り組んでおり、マネジメントにかかわる概念図および実施概要についてはホームページで社会に公表しています。

安全に関する外部表彰

| 年月 | 表彰名 | 表彰元 | 表彰対象 |
|----------|---------------------|---------------------------------|-------------|
| 2021年10月 | 安全性優良事業所の認定継続に対する表彰 | 関東運輸局群馬運輸支局長 | 群馬物流センター |
| 2022年4月 | 定例表彰（団体） | 愛知県危険物安全協会連合会 | 東海倉庫 |
| 2022年6月 | 優良危険物保安監督者 | 堺市長 | 大阪物流センター 社員 |
| 2022年6月 | 優良危険物関係事業所表彰 | 消防庁長官 | 大阪物流センター |
| 2022年6月 | 労働災害防止に関する表彰 | 陸上貨物運送事業労働災害防止協会 | NRS物流 群馬営業所 |
| 2022年6月 | 千葉県消防長会会長表彰 | 千葉県消防長会 会長 | 千葉物流センター 社員 |
| 2022年7月 | 優秀安全運転事業所 金賞 | 大阪府警察本部 交通部長 自動車安全運転センター 理事長 | NRS物流 大阪営業所 |



顧客に満足されるサービスを目指して

品質方針：

「顧客が満足する物流の品質・プランを提供し社会に貢献する」

誤出荷削減への取り組み

NRSグループでは、取扱貨物100万件あたり何件誤出荷が発生しているかという誤出荷率（ppm）を品質指標として、誤出荷削減に取り組んでいます。

受注処理の電子化や照合確認作業の機械化などDXを推進しているほか、予防活動として誤出荷防止教育、危険予知トレーニング、リスクアセスメント等を実施しています。

安全規則の徹底と教育指導

危険物物流には様々な規制がかかわっており、専門的な知識が求められます。当社では、毎年全社員を対象に、国内の危険物に関する法規制やIMDG CODE（国連機関で定めている危険物輸送の規則）、AEO制度等の勉強会を定期的に開催しています。このほか、部門ごとに専門的な研修も実施し、安全で高品質な物流サービス提供に努めています。

危険物取扱者の資格取得奨励

危険物取扱者は、消防法で定められた「危険物」を取り扱うときに必要な国家資格ですが、当社では、本社の社員、総務や経理担当など直接危険物を取り扱わない社員へも資格の取得を奨励し、資格取得時の費用を補助しています。資格の取得は個人の能力の向上となるだけでなく、顧客により良いサービスを提供し企業としての付加価値の向上に繋がります。

危険物取扱者乙種4類（甲種含む）取得率
（2022年9月末時点）

NRS 87%

NRS物流 100%



日本品質の安心・安全な化学品物流の実現

ベトナム初の化学品専用倉庫の開業

2021年11月、当社のグループ会社であるNRS Raiza Logistics Vietnam, JSC.がベトナム社会主義共和国初の省政府公認の化学品専用倉庫を開業しました。約2年の期間を費やし、様々な危険物蔵置を可能にするべく、関係省庁と「安全と環境」に関する議論と折衝を重ねました。結果、当倉庫は、ベトナムとして初めてのIMDGクラスごとの蔵置をベースにした化学品専用倉庫として、2020年5月16日に省政府より正式に認められました。

当倉庫は、高床式放爆構造・防爆設備を備えた化学品専用倉庫です。日本の消防基準とNRSの創業以来75年のノウハウをもとにした安全基準により設計されており、かつベトナムの各法律にも準拠しています。開業時より日本人スタッフが常駐し、日本品質の管理体制による安全なサービスを提供します。

NRSグループは、2018年に同国に設立した NRS Logistics Vietnam による危険物輸送、フォワーディング、IBC・ISOタンクコンテナ事業と併せ、顧客へ最適な提案ができる危険物総合物流会社として、成長著しいベトナムを引き続き安全面から支える企業として寄与していきます。



「化学品物流に今ない価値を創る」物流DXの4戦略

DXのビジョン

デジタルを使いプロセスを見直し、データの活用を通じて
「化学品物流に今ない価値を創る」

戦略
1

徹底した生産性の向上

物流プロセス全体を見直し、ヒト・モノの生産性を最大限に効率化させる。そのために、機械化できるものは、すべて機械化する。

戦略
2

化学品物流を変革する

プラットフォームを用い、同業他社との連携を通じて、データを使い化学品物流業界全体の変革をリードする。

戦略
3

顧客に新たな価値提供

顧客のサプライチェーンの効率化に貢献をするために、Logistics × Software × Dataの組み合わせで新たな価値を提供する。

戦略
4

DX人材育成

デジタルを用いて、化学品メーカーおよび商社の皆さま、危険物物流業界に新たな価値を提供します。新たな物流サービスは、大きな変革を実現できるものと考えています。そのために、4つの戦略を実行します。

戦略1：徹底した生産性の向上

物流のプロセス全体を見直し、顧客に正確でスピーディな物流サービスを提供します。具体的には、現在のFAX・メールでのやり取りから脱却し、データを流して標準化した各工程によって顧客サービスを管理します。その結果として、属人化を排除し安全で高品質な物流サービスをグローバルに提供します。

戦略2：化学品物流を変革する

2024年問題など化学品物流業界全体の課題に取り組みます。その取り組みを通じて、化学品物流全体の生産性を効率化させ、新たな価値を創造し、結果として化学品メーカー様、商社様により高度な物流サービスの提供に繋がります。具体的には、すでに稼働中の危険物倉庫空き情報プラットフォームシステム（Anywarehouse）に加え、トラック輸送・ISOコンテナのシェアリングのプラットフォームシステムを現在開発しており、今後の導入を進めていきます。

戦略3：顧客に新たな価値提供

従来の運ぶ、保管するといった物流サービスに加えて、そのデータを活用し顧客のサプライチェーンの効率化に取り組みます。そのために、私たちは「X-Track」というプラットフォーム型のソフトウェアの提供を始めています。X-Trackはメーカー様・サプライヤー様の工場内管理や、物流容器のトラッキング、物流容器の検査管理、メーカー様の物流手配等の機能を提供しています。それら日々のトランザクションデータから、保管の回転率や物流リードタイムを可視化し、サプライチェーン全体の貨物・物流容器の効率化に取り組んでいます。将来的には、AIやIoT、ブロックチェーンの技術を活用し、新たな価値創造に取り組む予定です。

戦略4：DX人材育成

NRSグループ全体でサステナビリティにDXを推進するために、DX人材育成にも力を入れていきます。DXの本質を理解し、Logistics × Software × Dataの組み合わせで、顧客・化学品物流業界全体に貢献を続けていきます。



社会：人財



社員が誇りと物心両面で幸せを感じる仕事

多様な個性を持つ社員1人ひとりが、当社の大切な財産です。企業が持続的に発展するためには、「組織としての多様性」が不可欠であると考え、誰もが生き生きと働き活躍できる職場を目指し、多様性の尊重（ダイバーシティ）や働きやすく人間らしい仕事（ディーセントワーク）を推進しています。また、顧客、取引先、社員、株主等を含む幅広い社会との健全で良好な関係の維持に努め、良き「企業市民」であるとともに海外諸国の文化慣習を尊重する良き「国際人」たることを目指します。

「多様性の尊重（ダイバーシティ）」

シニアの活躍

株式会社NRSバリュークリエイト 設立

日本の少子高齢化の進展や多様な人財の活躍支援という観点を踏まえ、2022年10月より定年を65歳に延長しました。また、1人ひとりが生き生きと長く働くことのできる場を提供することを目的に、2021年10月に株式会社NRSバリュークリエイトを設立しました。社名には「NRSグループの価値（Value）の創出・向上に貢献し、働く1人ひとりがそれを実感し喜びと誇りを感じられる会社へ」という想いを込めています。施設・設備の修繕・点検やI B C 容器の検査など従来外部に委託していた業務や、教育資料の映像化など人員や手間などの事情でこれまで進展に時間を要した業務を迅速・機敏に遂行し、また事業における周辺業務、定型業務を集約化することで、グループ全体の生産性向上に寄与する多様で新たな業務を創造し、NRSグループの価値をさらに高める会社としてその存在を確立します。

女性の活躍

えるぼしの取得

NRSグループは、厚生労働省が定める女性活躍推進企業認定「えるぼし認定」の最高位である3つ星（3段階目）を取得しました。

当社では、女性管理職比率の向上や継続就業の男女差軽減に向け、キャリアアップ研修の実施、制度の整備等を通して、男女ともに働きやすい職場づくりに取り組んできました。今後も企業文化における多様性を高めるとともに、多様な人財が活躍できる職場づくりに向け、社員の行動変革に繋げていきます。



外国籍人財の採用とサポート

事業のグローバル化に伴い、外国籍の人財を積極的に採用しています。新卒採用では、4月入社だけではなく、海外の卒業時期に合わせた10月入社の選考会を行っています。2019年より台湾を中心とした就職採用面談を実施、台湾の他にも中国、ベトナム、フランスの外国籍社員が活躍しています。また、仕事だけではなく日々の生活も最適にすごせるよう会社がサポート、入社後は必要に応じた研修を実施しています。その後のキャリアにおいても研修計画をもとに実施していきます。



障がい者の活躍

「障がいのある人もない人もともに働ける企業」であることを目標に、障がい者雇用にあたっています。障がい者の方も組織の一員としての実感を持ち、スキルを積みながら生き生きと活躍できるよう支援し、安心して長く働けるよう努めています。

I 働きやすい職場づくり（ディーセントワーク）

働きやすい職場認証の取得

2021年にNRS株式会社、NRS物流株式会社において「運転者職場環境良好度認証制度（いわゆる、働きやすい職場認証制度）」の「1つ星認証」を取得しました。本制度は2020年8月に国土交通省で創設されたもので、この認証制度を通じて認証事業者の労働条件や労働環境を求職者が容易に確認できるようになることにより、トラック・バス・タクシーの運転者への就職の促進や、自動車運送事業者が認証基準を満たすために、様々な改善に取り組むことを通じて、より働きやすい労働条件、労働環境の実現等を目的としています。



安全衛生委員会

社員の労働安全および衛生に関する事項を調査審議する安全衛生委員会を設置し、毎月1回社員の労働災害の防止や健康障害防止基本対策等について審議しています。

また、安全衛生活動として、衛生管理者による職場巡視、安全・品質部門による安全パトロールの実施、研修・教育等を開催し、職場の安全衛生を管理しています。

ワークライフバランスの実現のために

多様な人財がそれぞれ持てる力を最大限に発揮し、すべての社員が長く活躍できる環境を実現するために、ワークライフバランスを重視した制度を整えるとともに、制度の利用を促進しています。

- ・ 育児短時間勤務制度の拡大
- ・ 育児・介護フレックス制度
- ・ ジョブカムバック制度
- ・ 時間単位の年次有給制度
- ・ 配偶者同行休職制度
- ・ 男性の育児休業促進 など

明るく元気な職場づくりプロジェクト

多様な人財1人ひとりが活躍・成長するために、風通しの良い、明るく元気な職場を目指し人事施策を展開しています。2022年4月には当社社外取締役のアドバイスのもと、社員の会社や仕事に対する思い入れ（エンゲージメント）に関する調査を実施しました。社員の「会社・仕事」に対する想いを可視化し、分析し、効果的な施策立案に結び付け、社員とともに成長する強い会社を目指しています。

ほかにも「さん」付け運動や、メールの簡素化や敬語の使いすぎを呼びかけ、また社員からアイデアを募集し取り組んでいます。



若手意見交換会 「FIT (Fresh Ideas Trading)」 の創設

2021年、有志の若手社員が主体となり、社内意見交換会「FIT (Fresh Ideas Trading)」を創設しました。身近な意見交換の場を作り、仲間と一緒に会社の課題を広く共有し、会社を前向きに変える活動に取り組んでいます。第1回目は「仕事へのモチベーション」、第2回目は、「私が評価してほしいこと」をテーマにワークショップを開催しました。課題について参加者同士で意見を出し合い、問題点と解決案を取りまとめた上で、人事総務部へ前向きな提案を行いました。人事総務部は受けた提案に対し検討し、関係者と連携して課題を解決するための取り組みを進めています。2022年開催の第3回目では、より気軽に意見交換のできる懇親会形式で開催し、本社中心に30名超が参加しました。

日常業務外におけるコミュニケーションの醸成がなされ、年齢・職種を超えた相互の課題発見・改善の一步を踏み出しています。これらの活動は全社員へ報告され、より良い職場づくりに役立っています。



健康経営の推進

社員の心身の健康増進を目的に2021年度から「健康経営」を進めています。

1. 健康診断スケジュール短縮化、管理の簡素化
2. 産業看護師との契約
3. 健康診断オプションの選択肢・補助額増
4. 健康管理システム

産業看護師は定期的に本社に訪問し、定期健診の受診管理や再検査の推奨業務の他、健康・メンタル相談を対面やオンラインで実施しています。

また、安全衛生委員会を開催し、労働安全や衛生について審議をしています。

教育研修制度の充実

2021年10月から始まった中期経営計画「NRS 2024」では、「自己研鑽による社員のダイヤモンド化」を経営方針のひとつとし、人財の育成を最重要課題に位置付けています。グローバルに変化が激しく、より多様化する市場において事業を成長させ飛躍するために、人的資本をより強化し社員を成長させる教育、研修制度を導入しています。2022年度の教育研修予算は一般的な平均*を大きく上回る国内社員1人あたり年間平均約10万円を充てています。次年度はグローバルに拡大し、社員のダイヤモンド化を目指します。

*産労総合研究所2020年度（第44回）教育研修費用の実態調査より

2022年度教育研修の例

- ・女性活躍
- ・階層別研修
- ・グローバルリーダー育成研修
- ・管理者研修
- ・次期管理者研修
- ・1～5年目フォローアップ研修
- ・自己啓発
- ・ライフプランセミナー
- ・アンガーマネジメント研修
- ・ITリテラシー教育 など



2年目フォローアップ研修



次期管理者研修



中堅社員向け発信力強化研修



NRSグループは、「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という理念のもと、幅広い社会貢献活動に取り組んでいます。

被災地支援

- 阪神・淡路大震災（1995年1月）
- 東日本大震災（2011年3月）
- 中国四川省大地震（2008年5月）
- 西日本豪雨（2018年6-7月）

マッチング募金

社員からの寄付金に会社から同額を加えて寄付をするマッチング募金を実施しています。2009年にスタートし、国境なき医師団日本および日本ユニセフ協会・交通遺児育英会・一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会に寄付を行っており、2021年から恵まれない10代を支援する認定NPO法人カタリバにも支援の幅を広げています。

2022年3月には、ウクライナ人道支援として、総額3,881,380円を国連UNHCR協会に寄付しました。



団体への支援

● 認定NPO法人 カタリバ

どんな環境に生まれ育った10代も未来をつくりだす意欲と創造性を育める社会を目指し、安心できる居場所と多様な学びの機会を届けている教育NPO法人です。

2021年5月からマッチング募金や食料品、文房具の提供など多方面で活動を支援しています。

● 一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会

2017年より、協賛契約を締結し、障がい者スポーツの普及に貢献するとともに、障がい者支援に理解を深め前向きに取り組む機会を社員に提供しています。2021年9月の日本サッカー協会100周年表彰において、日本サッカー界に貢献した企業として感謝表彰を受賞しました。



● 公益財団法人 日本ナショナルトラスト

日本ナショナルトラストは、日本のすぐれた文化財や自然の風景地などを保全し、利活用しながら次の世代に繋げていくことを目的に活動している団体です。2022年より、賛助企業として活動支援を開始しました。



● WWFジャパン

2008年より、WWFジャパンの法人会員として、WWFの環境保全活動を応援しています。

● 日本赤十字社

2017年5月から献血サポーターとして献血活動を実施しています。

● セカンド ハーベスト・ジャパン

備蓄食品の買い替え時にセカンド ハーベスト・ジャパンへ寄贈しています。



地域社会への貢献

本社および事業所において地域清掃に積極的に取り組んでいます。本社が所在する千代田区は、年に2回「千代田区一斉清掃の日」と定め、清掃活動や環境美化に関する啓発活動を行っており、当社もこの活動に参加しています。

また、千代田区社会福祉協議会が運営する「ちよだボランティアクラブ」に加盟し、ボランティア活動を通して地域との連携強化を図っています。

グローバル拠点での社会貢献

アメリカ、ヨーロッパ、アジア地域など当社のグループ拠点にて、各地域が必要とする環境保護活動や災害支援に取り組んでいます。

2022年3月には、タイ グラビー県 ンガイ島で現地スタッフ総勢12名によるビーチクリーン活動を実施しました。



ガバナンス

社会から信頼され持続的な成長ができる会社

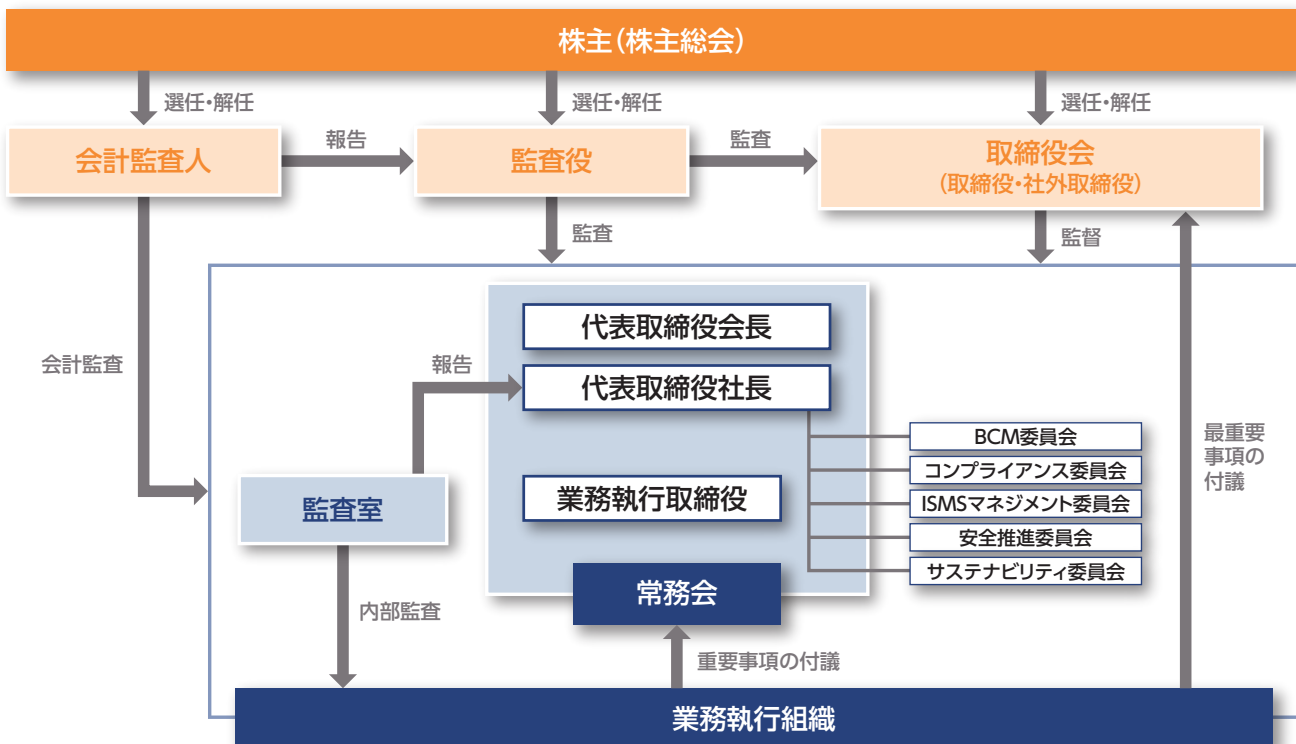
私たちが扱う化学品は、社会により豊かさや幸せを与えるものであり、その化学品産業の基幹をなすのが私たち物流事業です。物流業が産業の基幹をなしていることに誇りを持ち、社会的責任を果たします。

NRSグループが事業活動を行う上で基盤としているのが、「NRSグループ企業倫理綱領」です。「倫理に基づく行動」と「法の遵守」と「安全の重視」を基本に据えて、主体性と自己責任に基づく、良識ある公正な行動により、エクセレント・カンパニーとして広く社会から支持されることを目指します。

コーポレートガバナンス基本方針

倫理に基づく行動と法の遵守、安全品質を徹底します。そして私たちは多様な人格と個性を尊重し、顧客、取引先、従業員、株主を含むすべてのステークホルダーとの健全で良好な関係を築きます。これらを実現するため、健全でかつ透明、公正、迅速な意思決定を行う最適なコーポレートガバナンスの追求を続けます。

コーポレートガバナンス体制図



取締役会

経営の意思決定機関であり、重要な業務執行、経営戦略や方針を決定します。取締役の業務執行の監督および内部統制システムの構築など健全な業務運営を担います。

常務会

迅速な業務執行を目的とし、取締役会決議事項以外について定期的に審議します。その内容は取締役会に報告します。

監査役

取締役や執行役員の業務執行を監査します。また、コンプライアンスや会計等で適正な経営がなされているかを監査します。

監査室

業務執行部門から独立した立場で、業務の合规性・効率性・経済性・有効性を検証および評価し、その結果を取締役会等に報告します。監査役の職務執行について、その指示に従い補助業務を行います。

内部統制・法務・リスク管理部

NRSグループの内部統制システムの構築と運用管理、および経営リスクに関する情報収集・分析ならびに対応への取り組みに関する管理全般を行います。

コーポレートガバナンス研修の実施

2022年7月4日に役員を対象としたコーポレートガバナンス研修を実施しました。企業経営の健全化や法律を遵守した経営を目指すこと、そのための体制強化は重要な経営課題であるとの認識に立ち、外部講師をお呼びしてコーポレートガバナンスについての理解を深めました。

コンプライアンスの徹底

コンプライアンス委員会

社長を委員長としたコンプライアンス委員会を定期的を開催し、グループ企業も含めた全社的なコンプライアンス推進に関する重要事項の共有化、審議・検討を行い、その内容を取締役会に報告しています。

また、研修会やeラーニングを通じた法令、各種規制知識の徹底、および継続的な組織風土の改善による問題の発生防止、早期発見が可能な組織づくりや、業務監査や内部統制窓口の活用、コンプライアンス委員会活動等、問題の早期発見と再発防止に繋げるためのコンプライアンス体制強化に努めています。

内部通報窓口

倫理綱領、法令、社内規程等に違反した行為、または、違反の疑いがある行為を早期に発見し是正を図るため、内部通報窓口を設置しています。

- ・内部通報窓口：社内および社外（弁護士事務所）に設置 今後海外現法も対象として拡大予定
- ・通報・告発者の権利保護：公益通報者保護規程にて制定
- ・改正公益通報者保護法ガイドライン：準ずる



新輸出入管理体制による安全保障貿易管理の強化

国際社会が取り組む大量破壊兵器や関連貨物の不拡散という重要課題を会社として再認識し、安全保障貿易管理を強化するため、2021年11月より新体制で取り組んでいます。

1. 安全保障輸出管理規程の制定。組織体制、手続き、監査、教育、文書管理などの明確化。輸出入管理統括部門の新設。
2. 輸出承認手続きをシステム化（名称：楽々ワークフロー輸出管理）。輸入記録も含め、WEB上で文書ペーパーレス管理。
3. 新入社員向け勉強会の実施。全社員対象のeラーニングによる意識向上に努めています。
4. 法令改正情報の入手と適時の伝達。今後は内部監査により、さらなる改善を図っていきます。

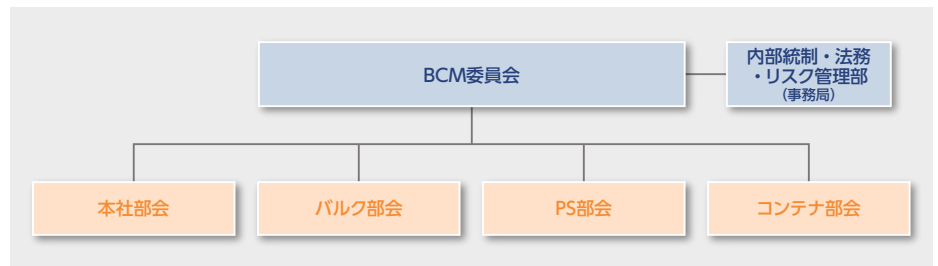
リスクマネジメント

リスクを横断的に管理する社長直轄体制を敷いており、①事業計画に関する活動の方針や施策の審議決定を行うBCM委員会、②情報機器管理に関するISO27001認証を取得し、ISMSマネジメント委員会を設置しています。

BCM委員会

危険物・化学製品・薬品等の輸送・保管、およびタンクコンテナ・リースで業界トップレベルのシェアを有するNRSグループは、大規模災害発生時や感染症のリスク下でも事業を早期に復旧し継続することが重大な社会的責任と考えています。

社長を委員長としたBCM委員会の議論をもとに、事業所ごとの「事業継続計画（BCP）」を点検・見直すことで、継続的にサービス・製品を顧客に提供できる体制をとっています。



情報セキュリティ

2020年に情報機器管理に関するISO27001認証を取得。情報セキュリティ方針のもと、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）を確立し、情報セキュリティを維持するための活動を実践しています。2022年10月に情報セキュリティハンドブック第5版を発行し、社員に周知徹底を図っています。また、多要素認証によるアカウント管理、PCやサーバーなどの従来のエンドポイント対策に加え、2023年9月迄にグローバルでゼロトラストツールの導入を計画しており、人・機械の両面での対策を講じていきます。顧客の大切な情報を絶対に漏洩させない、高度な物流を支えるシステムを止めないという考え方のもと、セキュリティレベルのさらなる向上に努めていきます。

新型コロナウイルス感染症への対応

経営トップの指揮のもと、グループ社員・家族の安全確保、感染拡大防止および業務の継続を目的に、コロナ対策委員会を設置しています。各拠点の状況確認、マスクや消毒、検査キット等必要な物資の確保をしています。また、国内におけるワクチンの職域接種を社員は勿論、2親等までの家族（同居、別居問わず）、協力会社の社員まで拡大し、いち早く実施しました。

緊急事態への対応

重大な事故・災害の緊急事態が発生した場合に、NRSグループとして組織的に対応するため緊急事態措置規程を定めています。この規程は、対策レベル、対策本部の設置・構成・指揮、事業所の出勤・応援地域、現地での指揮、連絡体制、防災資材の準備、教育・訓練、事故災害報告書等で構成しています。

また、緊急時固定電話や携帯電話が使用不可の事態に備え、災害対策用通信機器である「ハザードトーク（機器名称）」を本社および国内全拠点に計45台配備、月に1度通信訓練を実施しています。

緊急時も事業継続の可否を速やかに把握でき、万が一継続不可の場合でもグループ内で連携して事業を復旧させ、継続的にサービス・製品を顧客に提供できる体制を整えています。



ESGデータ



環境

NRSグループCO₂排出量

(単位：t-CO₂)

| | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|----------|--------|--------|--------|
| Scope1+2 | — | — | 17,615 |

国内グループCO₂排出量

(単位：t-CO₂)

| | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|----------|--------|--------|--------|
| Scope1+2 | 15,419 | 15,954 | 15,431 |
| Scope1 | 9,087 | 9,867 | 9,761 |
| Scope2 | 6,332 | 6,087 | 5,670 |

NRSエアロジスティクスは2022年度より集計
2022年4月～9月は2021年度_電気事業者別排出係数を用いています

産業廃棄物排出量

(単位：t)

| | 2020年 | 2021年 |
|------------|-------|-------|
| 総排出量 | 937 | 1,017 |
| 一般産業廃棄物量 | 865 | 914 |
| 特別管理産業廃棄物量 | 72 | 103 |

対象範囲は国内グループ
算出期間は、4月～3月

ISO14001認証取得一覧

| | |
|----------------|-----------|
| 本社 | 横浜物流センター |
| 千葉物流センター | 川崎ConTech |
| 千葉物流センター 袖ヶ浦倉庫 | 高石ケミカル |

グリーン経営

| | |
|-------|----------|
| 千葉事業所 | 北九州事業所 |
| 大阪事業所 | 新潟事業所 |
| 川崎事業所 | 名古屋事業所 |
| 神戸事業所 | 群馬物流センター |
| 群馬事業所 | 大阪物流センター |



社会

NRSグループ社員数 (海外、非正規社員含む)

(単位：名)

| | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|------------|--------|--------|--------|
| NRSグループ社員数 | 1,088 | 1,064 | 1,104 |

人財関連データ

| | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|-------------------|----|--------|--------|--------|
| 社員数 (名) | | 759 | 742 | 766 |
| | 男性 | 615 | 593 | 604 |
| | 女性 | 144 | 149 | 162 |
| 平均年齢 (歳) | | 40 | 42 | 41 |
| 平均勤続年数 (年) | | 12 | 14 | 13 |
| 新卒採用数 (名) | | 28 | 23 | 25 |
| | 男性 | 21 | 13 | 17 |
| | 女性 | 7 | 10 | 8 |
| 中途採用数 (名) | | 28 | 21 | 25 |
| | 男性 | 18 | 14 | 20 |
| | 女性 | 10 | 7 | 5 |
| 離職者数*1 (名) | | 20 | 21 | 24 |
| 女性管理職比率 (%) | | 7.9 | 7.2 | 8.4 |
| 外国籍社員 在籍者数 (名) | | 16 | 15 | 19 |
| 障がい者雇用率*2 (%) | | 1.75 | 1.86 | 1.94 |
| 有給休暇 平均取得日数*3 (日) | | 7.8 | 8.1 | 9 |
| 育児休業取得率 (%) | | 15 | 25 | 38 |
| | 男性 | 0 | 0 | 17 |
| | 女性 | 100 | 100 | 100 |
| 育児休業復職率 (%) | | 100 | 100 | 100 |

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル
海外と国内非正規社員は含みません

*1 定年者を除く *2 対象範囲はNRSのみ *3 算出期間は4月-3月

社会貢献活動支出額 (マッチング募金含む)

| | 2022年度 |
|-----------|------------|
| 社会貢献活動支出額 | 4,746,000円 |

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル

労働災害指数 度数率

| | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|------------|--------|--------|--------|
| 労働災害指数 度数率 | 3.18 | 1.22 | 1.69 |

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル

2021年平均度数率 (厚生労働省 労働災害動向調査より)

運輸業・郵便業 : 3.31 全産業平均 : 2.09

危険物取扱者 乙種4類 (甲種含む) 取得率

| | 2022年度 |
|-------|--------|
| NRS | 87% |
| NRS物流 | 100% |

ISO9001認証 取得一覧

| | | |
|----------------|---------------|--------------------|
| 本社 | 中部物流センター | 大阪事業所 |
| 千葉物流センター | 中部物流センター 東海倉庫 | 高石ケミカル |
| 千葉物流センター 袖ヶ浦倉庫 | 九州物流センター | NRSケミカルセンター |
| 横浜物流センター | 川崎ConTech | 東京液体化成品センター 川崎営業所 |
| 大阪物流センター | 神戸ConTech | 東京液体化成品センター 名古屋営業所 |
| 群馬物流センター | 川崎事業所 | |



ガバナンス

経営体制

(単位：名)

| | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|-----------|--------|--------|--------|
| 取締役（うち女性） | 7 (0) | 9 (1) | 8 (1) |
| 社外取締役 | 0 | 1 | 1 |
| 監査役 | 2 | 2 | 2 |

対象範囲はNRS

内部通報件数

(単位：件)

| | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 内部通報件数 | 9 | 4 | 5 |

対象範囲はNRS、NRS物流、高石ケミカル

